

原稿用紙の使い方（長生教育研究会国語教育部会編）

※ 原稿用紙の使い方には、多様な考え方があり絶対的なきまりはない。

本資料は、長生国語科指導の参考として作成した。（基本的には教科書表記の形式に準じている。）

参考

・光村図書教科書、光村図書HP

東京書籍教科書、東京書籍HP

題名は三ます程度空けて書く。

書き始め、及び段落の冒頭は
一ます空ける。

ただし、段落の冒頭にかぎが
くる場合は、一ます空けなくて
もよい。

六年 長生 愛

学年、姓、名の間、及び名の下は
各一ます空ける。

「負けた」。

とても暑い夏の日、わたしの

会話は、かぎ（「」）をつけて
行を変えて書く。
(コンクール等の規定により、
地の文に続けることもある。)

「最後まで自分でやるから、絶

対に手を出さないで。」

「ようせんが始まつた。」

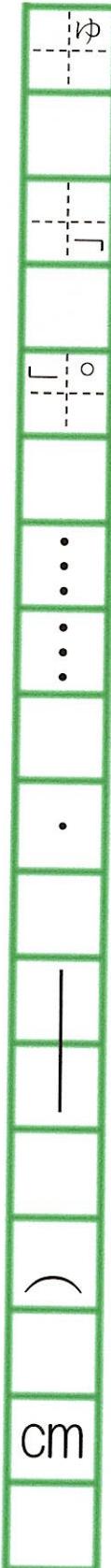
「最後まで自分でやるから、絶

くくりした様子でこちらを見た。

句読点は行頭にこないようにする。
そのため行末のますに文字と一緒に書く。
(行末の欄外に書くこともある。)

※ 括音や促音は、行頭にそのまま書くの
が一般的

☆括音・促音・記号等の書き方



原稿用紙の使い方 参考資料

※この資料は、光村図書教科書及びHP、東京書籍教科書及びHPから、文字表記・原稿用紙表記に関わる内容を取り上げている。

◎題名、氏名等の書き方について

- ・原則として、きまりはない。

◎かぎ（「　」）の扱いについて

- ・会話はかぎをつけて、行を変えて表記する。→枚数・字数等の関係で、長生生活作文は、地の文に続けて可としている。
- ・会話が二行以上続く場合の二行目以降の表記について、光村教科書では、小学校は一字下げ、中学校では行頭から表記している。
一般書は、行頭からの表記が一般的。

※ 小学校は読みやすさ、中学校は一般書への移行を重視している。

- ・段落の冒頭にかぎがくる場合、光村教科書では、会話のかぎは一字下げにしていない。（地の文との段差が大きく、読みにくいため）
会話以外のかぎ（作品名等）は一字下げにしている。

◎行頭・行末の表記について

- ・句読点は、行頭にこないようにする。→行末のますに文字と一緒に書く。欄外に書くこともある。
- ・拗音、促音が行頭にくる場合、見た目、読みにくさ、前文字の右下という原則等の問題があるが、一般的にはそのまま行頭に書くのが妥当。

◎その他の表記等について（長生生活作文の慣例）

- ・縦書き表記を基本としているので、数字は漢数字が適当。
- ・字数の関係で、単位は算用単位を使ってよい。一ますに入れる。（cmなど）